

滝山5丁目地域の減災・防災対策に関するアンケート 集計

(東久留米市社会福祉協議会・滝山五丁目自治会による現況調査)

前触れなく、突然訪れる災害 – あなたはどうしますか？

【安心して心豊かに暮らせる地域づくりにむけて】

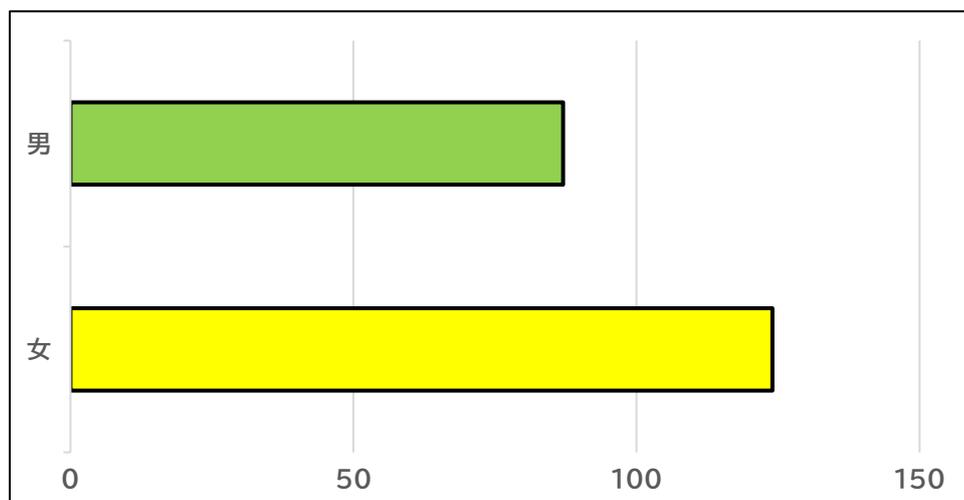
- ・対象 滝山5丁目にお住まいの方 531世帯
回答数 213件、回答率40.1%
(郵送 192件、WEB 21件)
- ・期間 令和4年11月1日(火)～12月2日(金)



【回答者のこと】

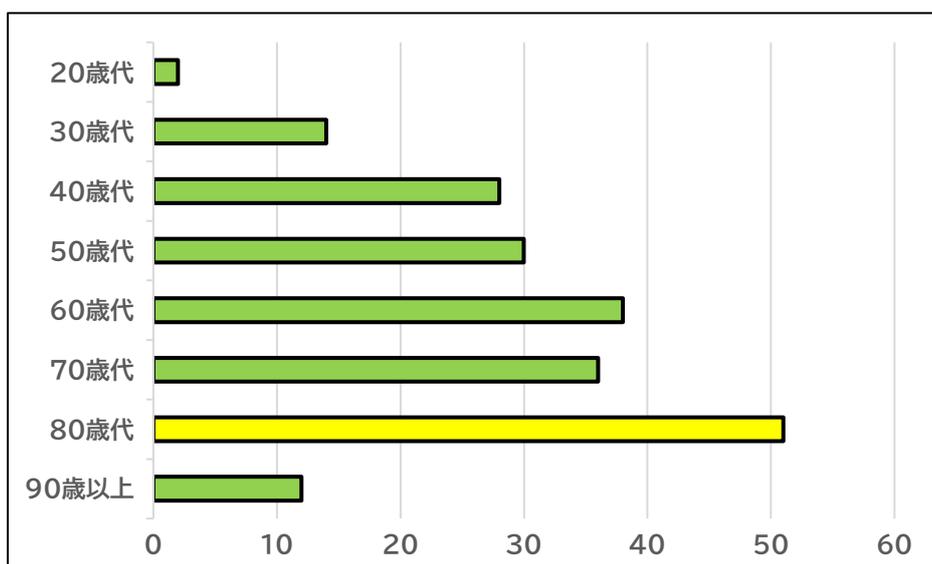
Q1 性別

	回答数	構成比
1. 男	87	41%
2. 女	124	58%
3. その他	0	0%
未回答	2	1%
計	213	100%



Q2 年齢

	回答数	構成比
1. 20 歳代	2	1%
2. 30 歳代	14	6.5%
3. 40 歳代	28	13%
4. 50 歳代	30	14%
5. 60 歳代	38	18%
6. 70 歳代	36	17%
7. 80 歳代	51	24%
8. 90 歳以上	12	5.5%
未回答	2	1%
計	213	100%



クロス集計<Q2 年齢と Q1 性別の関係>

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	未回答	合計
男性	0	3	12	10	16	18	22	6	0	87
女性	2	11	16	20	22	18	29	6	0	124
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	2	14	28	30	38	36	51	12	2	213

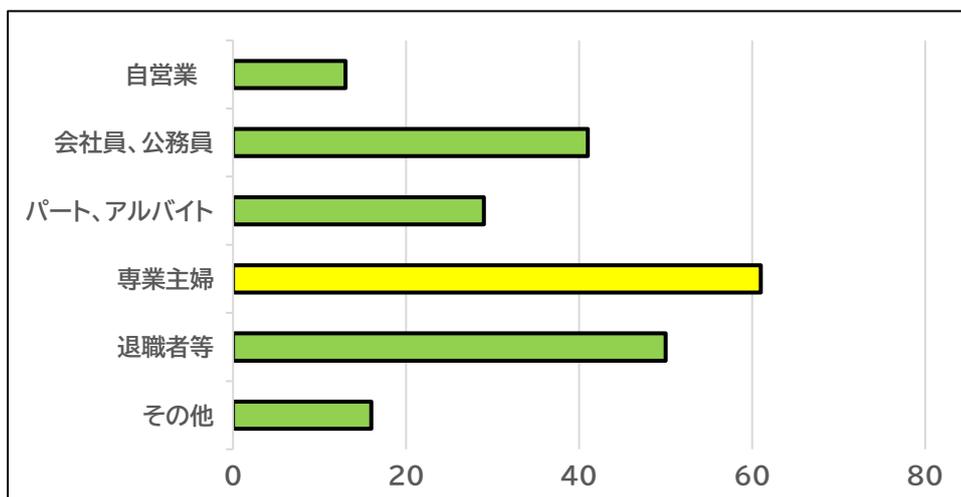
▶ 回答者は、80 歳代女性が 29 人で最多。次いで 80 歳代男性、60 歳代女性が 22 人。20 歳代男性からの回答は 0 だった。

Q3 職業

	回答数	構成比
1. 自営業	13	6%
2. 会社員、公務員	41	19%
3. パート、アルバイト	29	14%
4. 専業主婦	61	28.5%
5. 退職者等	50	23%
6. その他	16	7.5%
未回答	4	2%
計	214	100%

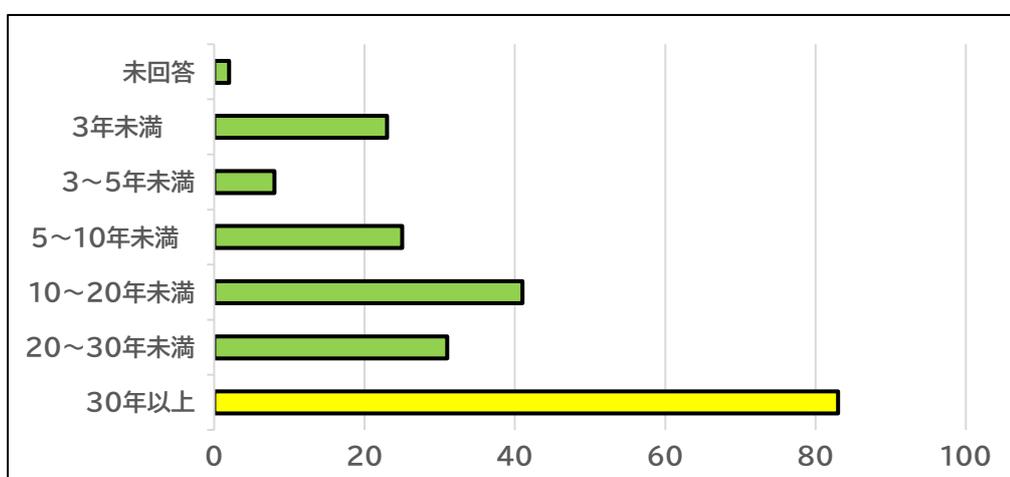
(その他の回答)

・無職(4)看護師(1)、パート看護師(1)、会社経営(1)、会社役員(1)、専業主夫(1)



Q4 居住年数

	回答数	構成比
1. 3年未満	23	11%
2. 3～5年未満	8	4%
3. 5～10年未満	25	12%
4. 10～20年未満	41	19%
5. 20～30年未満	31	14%
6. 30年以上	83	39%
未回答	2	1%
計	213	100%



クロス集計<Q2 年齢と Q4 居住年数の関係>

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	未回答	合計
3年未満	1	7	2	3	4	0	3	3	0	23
3～5年	0	1	3	2	1	0	0	1	0	8
5～10年	0	3	9	3	7	3	0	0	0	25
10～20年	0	3	13	9	10	3	3	0	0	41
20～30年	1	0	1	8	11	7	2	1	0	31
30年以上	0	0	0	5	5	23	43	7	0	83
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	2	14	28	30	38	36	51	12	2	213

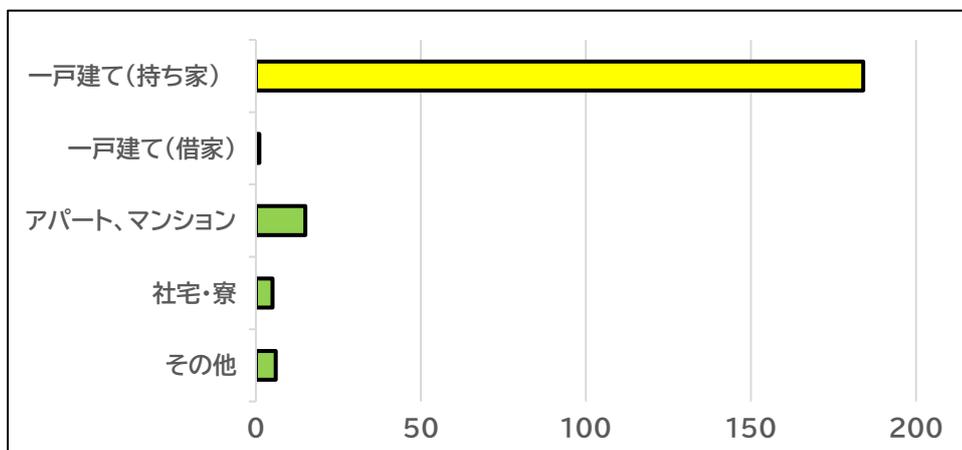
▶40歳代は居住年数「10～20年未満」が最も多く、50歳代・60歳代は「10～20年未満」と「20～30年未満」がほぼ同数、70歳代以上は「居住年数30年以上」が最も多い。全体では「30年以上」が約40%を占める一方、「3年未満」で近年居住した世帯も11%だった。

Q5 お住まいの形態

	回答数	構成比
1. 一戸建て(持ち家)	184	86.5%
2. 一戸建て(借家)	1	0.5%
3. アパート、マンション	15	7%
4. 社宅・寮	5	2%
5. その他	6	3%
未回答	2	1%
計	213	100%

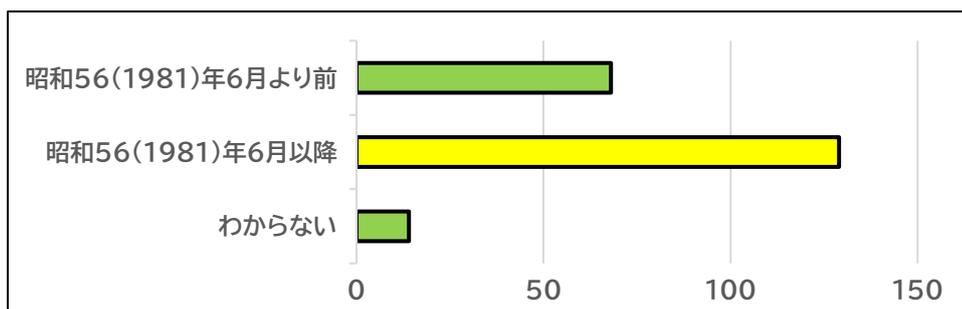
(その他の回答)

老人ホーム(2)、親の持ち家(1)



Q6 お住まいが建てられた年

	回答数	構成比
1. 昭和 56(1981)年 6 月より前	68	32%
2. 昭和 56(1981)年 6 月以降	129	60%
3. わからない	14	7%
未回答	2	1%
計	213	100%



Q7 自治会の加入

	回答数	構成比
1. 滝山五丁目自治会に加入している	112	53%
2. 加入していない	98	46%
未回答	3	1%
計	213	100%



クロス集計<Q4 居住年数と Q7 自治会の加入の関係>

	3年未満	3~5年	5~10年	10~20年	20~30年	30年以上	未回答	合計
滝山五丁目自治会に加入している	6	4	8	19	15	60	0	112
加入していない	17	4	17	22	15	23	0	98
未回答	0	0	0	0	1	0	2	3
合計	23	8	25	41	31	83	2	213

クロス集計<Q2 年齢と Q7 自治会の加入の関係>

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	未回答	合計
滝山五丁目自治会に加入している	0	2	11	16	18	25	34	6	0	112
加入していない	2	12	17	14	19	11	17	6	0	98
未回答	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3
合計	2	14	28	30	38	36	51	12	2	213

▶自治会加入は、全体の53%で、居住年数20年以上かつ70歳代以上が多い。

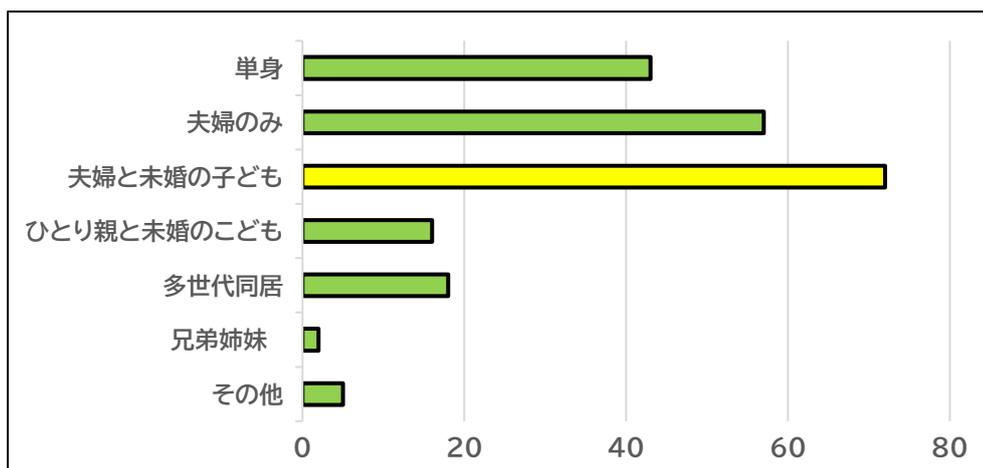
【家族のこと】

Q8 世帯構成はつぎのどれにあたりますか。

	回答数	構成比
1. 単身(一人暮らし)	43	20%
2. 夫婦のみ	57	27%
3. 夫婦と未婚の子ども	72	34%
4. ひとり親と未婚の子ども	16	7%
5. 多世代同居(親や祖父母、息子夫婦、娘夫婦、孫、などの同居)	18	8%
6. 兄弟姉妹	2	1%
7. その他	5	2%
未回答	2	1%
計	215	100%

(その他の回答)

母親(1)、息子夫婦同居別敷地(1)



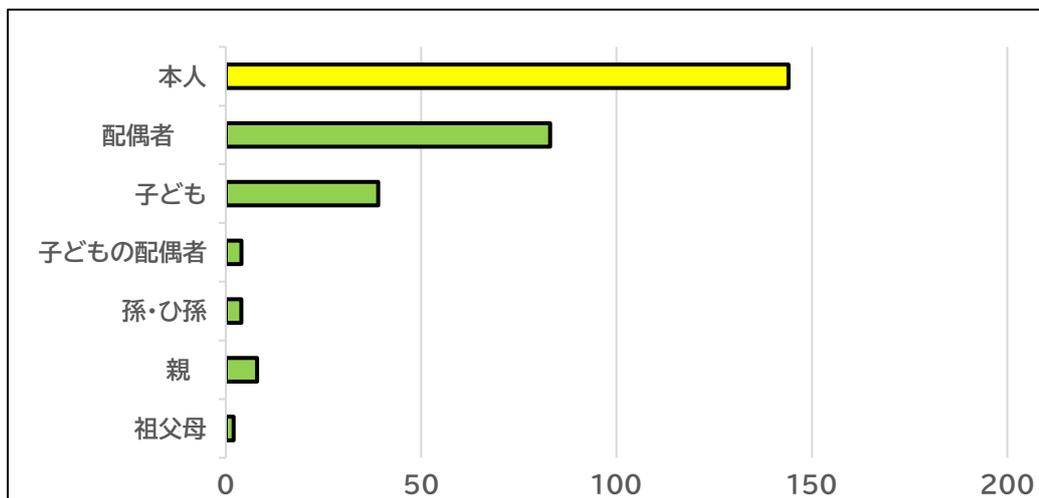
クロス集計<Q2 年齢と Q8 世帯構成の関係>

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	未回答	合計
単身	0	0	0	2	7	10	17	7	0	43
夫婦のみ	0	1	1	5	16	13	18	3	0	57
夫婦と 未婚の子	1	13	24	13	6	9	6	0	0	72
ひとり親と 未婚の子	0	0	2	3	4	0	7	0	0	16
多世代同居	1	0	1	6	4	3	2	1	0	18
兄弟姉妹	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
その他	0	0	0	1		1	2	1	0	5
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	2	14	28	30	38	36	51	12	2	213

▶20 歳代から 50 歳代までは、「夫婦と未婚の子」が最も多く、60 歳代は「夫婦のみ」、70 歳代以上は「夫婦のみ」または「単身」が多い。「多世代同居」は 30 歳代以外の全ての年代で回答があった。

Q9 日中(午前 9 時～午後 6 時頃)の間、主に自宅で過ごしている家族について、**あてはまる数字すべて**を○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 本人(回答者)	144	47%
2. 配偶者	83	27%
3. 子ども	39	13%
4. 子どもの配偶者	4	1.3%
5. 孫・ひ孫	4	1.3%
6. 親	8	2.6%
7. 祖父母	2	0.8%
8. 兄弟姉妹	0	0%
未回答	22	7%
計	306	100%



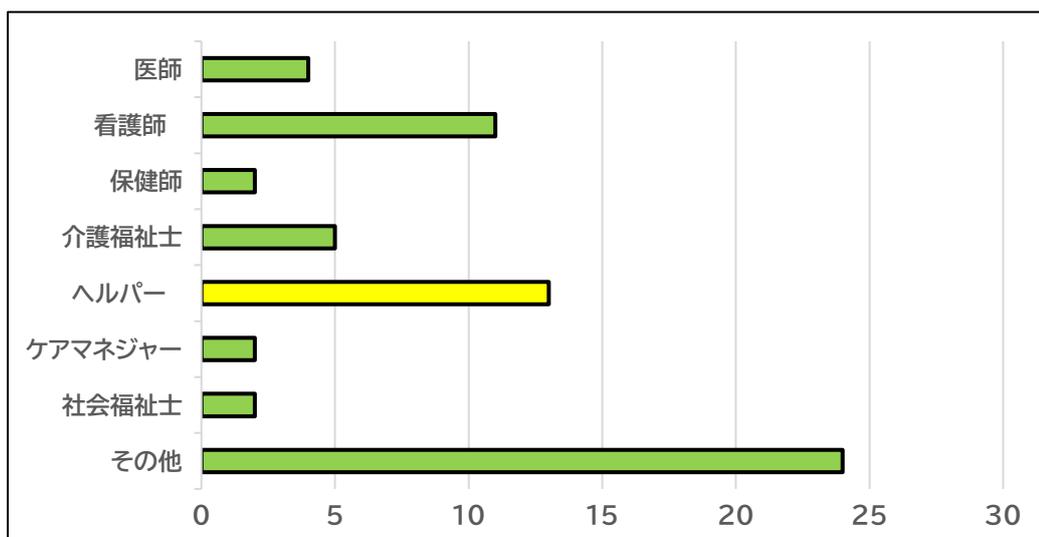
Q10 本人・家族で、取得している福祉・医療等の資格はありますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 医師	4	2%
2. 看護師	11	5%
3. 保健師	2	1%
4. 介護福祉士	5	2%
5. ヘルパー	13	6%
6. ケアマネジャー	2	1%
7. 社会福祉士	2	1%
8. その他	24	11%
未回答	158	71%
計	221	100%

(その他の回答)

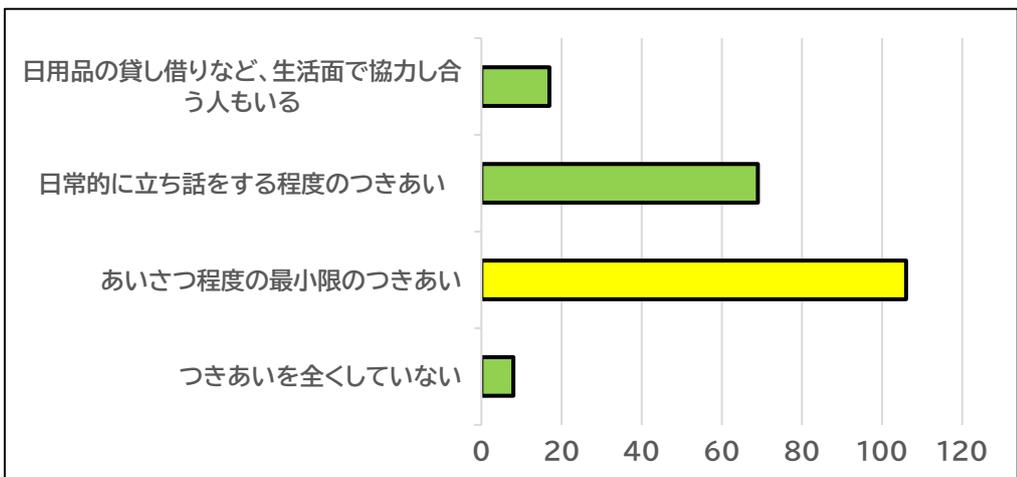
保育士(2)、視能訓練士(1)、歯科衛生士(1)、なし(13)



【近隣とのおつきあい】

Q11 近隣とのおつきあいはどの程度ですか。

	回答数	構成比
1. 日用品の貸し借りなど、生活面で協力し合う人もいる	17	8%
2. 日常的に立ち話をする程度のつきあい	69	32%
3. あいさつ程度の最小限のつきあい	106	49%
4. つきあいを全くしていない	8	3%
未回答	17	8%
計	217	100%

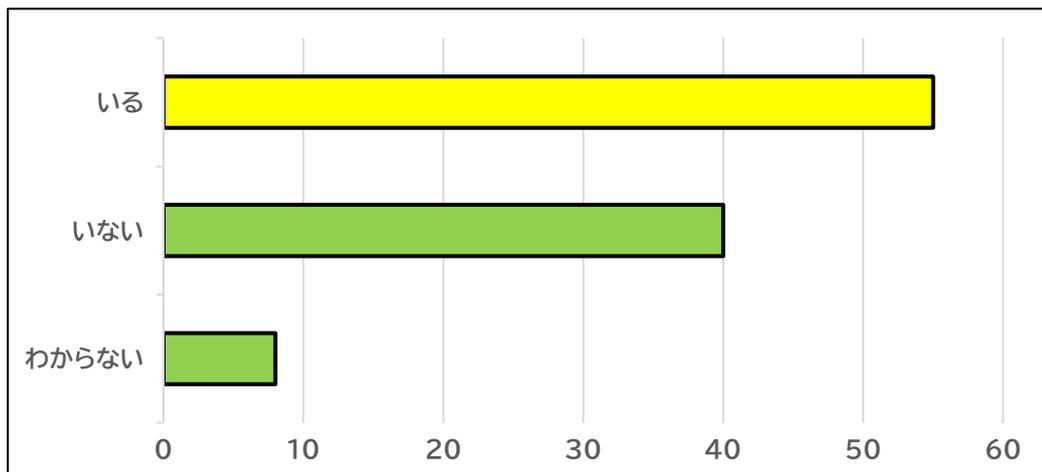


クロス集計<Q2 年齢とQ11 近隣とのおつきあいの関係>

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	未回答	合計
日用品の貸し借りなど、生活面で協力し合う人もいる	0	0	1	2	1	5	6	1	1	17
日常的に立ち話をする程度のつきあい	0	0	8	11	12	11	22	5	0	69
あいさつ程度の最小限のつきあい	2	9	18	14	21	19	17	5	1	106
つきあいを全くしていない	0	3	0	0	1	1	3	0	0	8
未回答	0	2	1	3	4	2	4	1	0	17
合計	2	14	28	30	39	38	52	12	2	217

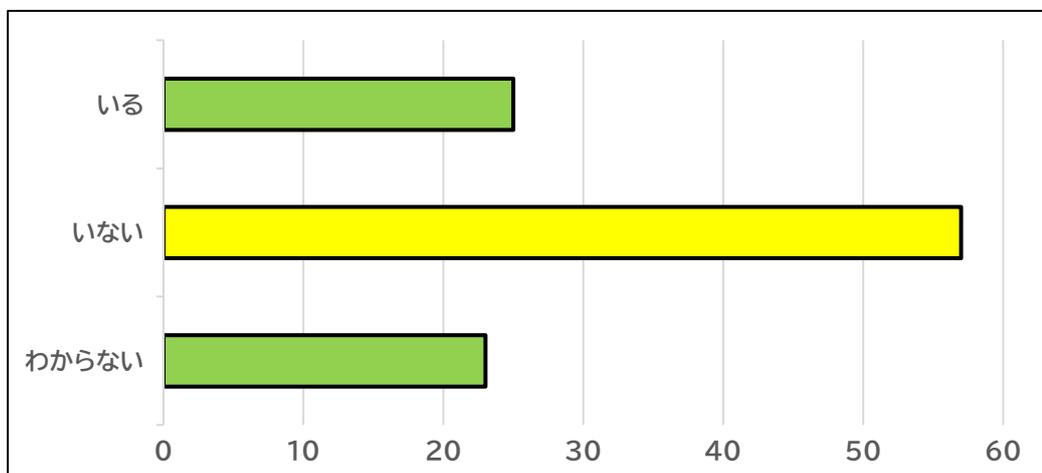
Q12 近隣で心配事や愚痴を聞いてくれる方はいますか。

	回答数	構成比
1. いる	55	29%
2. いない	40	21%
3. わからない	8	4%
未回答	111	46%
計	214	100%



Q13 本人または家族が病気で数日間寝込んだ時に、近隣の方で身の回りのお手伝いをしてくれる人はいますか。

	回答数	構成比
1. いる	25	13%
2. いない	57	30%
3. わからない	23	12%
未回答	109	45%
計	214	100%



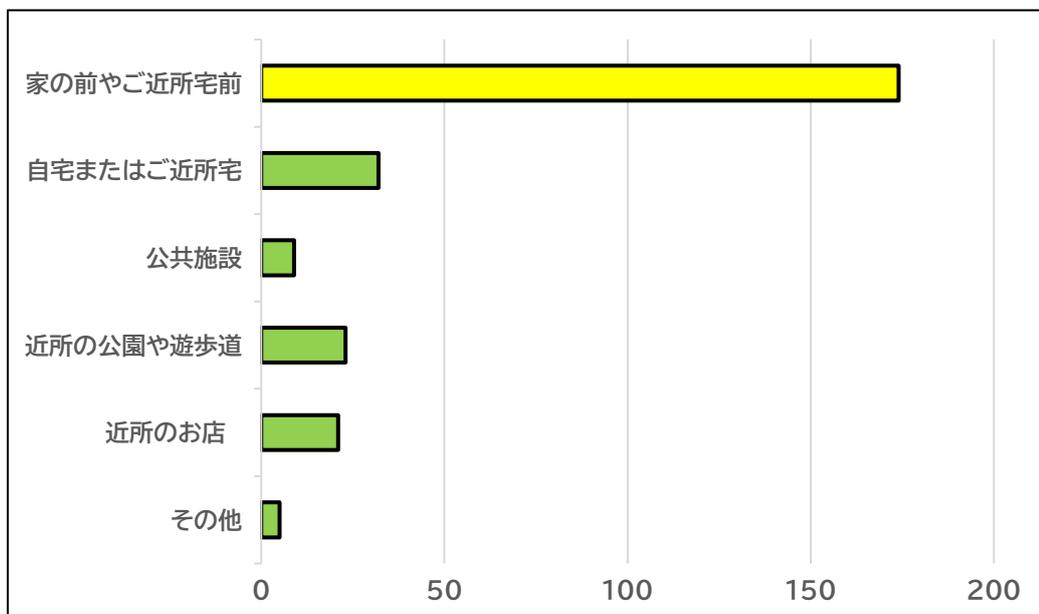
Q14 近隣の方とのおつきあいは、どのような場所で行うことが多いですか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 家の前やご近所宅前	174	61%
2. 自宅またはご近所宅	32	11%
3. 公共施設	9	3%
4. 近所の公園や遊歩道	23	8%
5. 近所のお店	21	7%
6. その他	5	2%
未回答	23	8%
計	287	100%

(その他の回答)

公園での体操(1)、なし(1)

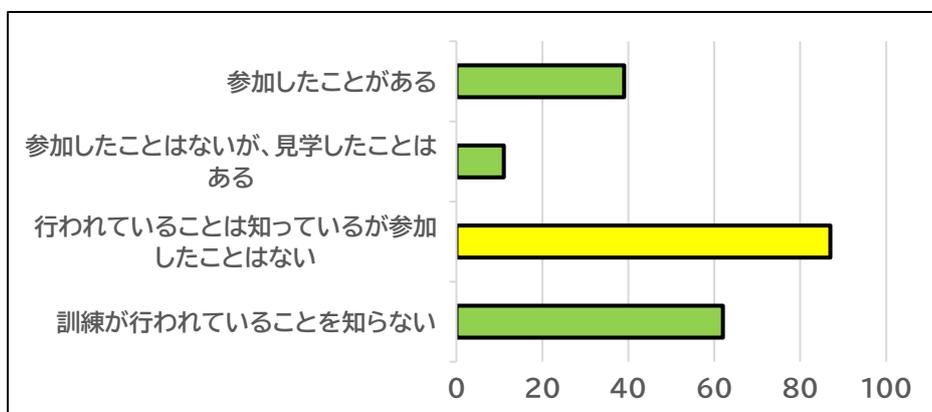


【防災意識・情報】

(防災訓練)

Q15 今まで、東久留米市や自治会の防災訓練に参加、または見学したことがありますか。

	回答数	構成比
1. 参加したことがある	39	18%
2. 参加したことはないが、見学したことはある	11	5%
3. 行われていることは知っているが参加したことはない	87	41%
4. 訓練が行われていることを知らない	62	29%
未回答	14	7%
計	213	100%



クロス集計<Q2 年齢とQ15 防災訓練の参加の関係>

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	未回答	合計
参加したことがある	0	1	3	7	4	9	13	0	2	39
参加はないが、見学したことはある	0	1	0	0	0	2	6	2	0	11
行われていることは知っているが参加したことはない	0	1	13	14	19	15	21	4	0	87
訓練が行われていることを知らない	2	10	12	8	11	7	7	5	0	62
未回答	0	1	0	1	4	3	4	1	0	14
合計	2	14	28	30	38	36	51	12	2	213

▶41%が「行われていることは知っているが参加したことはない」と回答。20歳代～30歳代、90歳代では、「訓練が行われていることを知らない」という回答が多い。

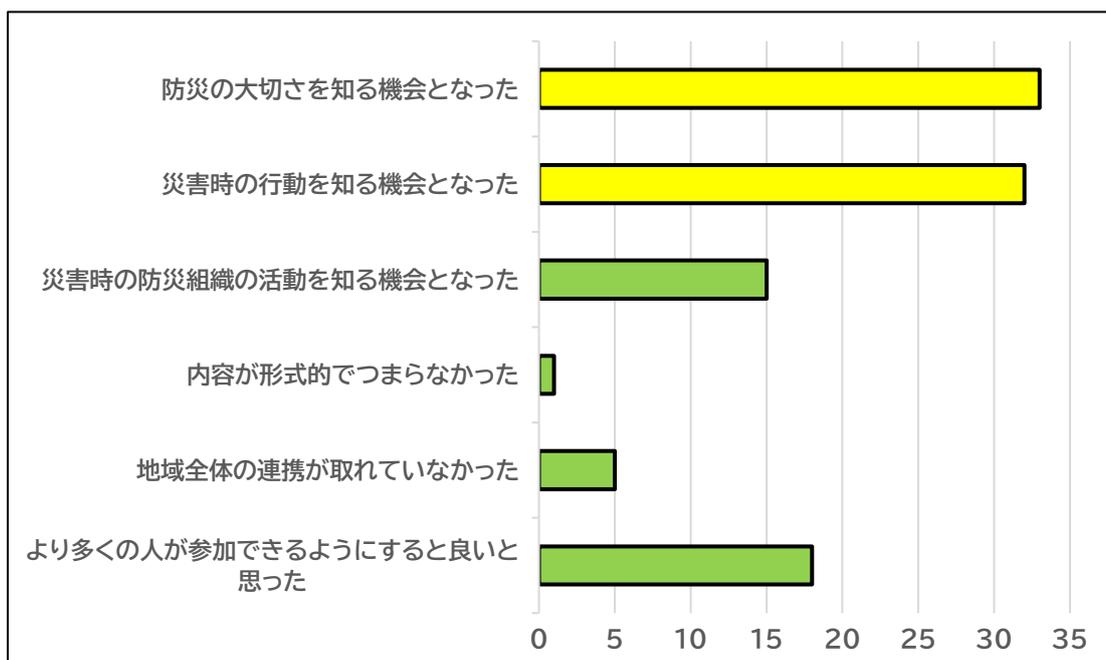
Q16 防災訓練に参加または見学してみてどのようなことを感じましたか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 防災の大切さを知る機会となった	33	12.5%
2. 災害時の行動を知る機会となった	32	12%
3. 災害時の防災組織の活動を知る機会となった	15	5.5%
4. 内容が形式的でつまらなかった	1	0.5%
5. 地域全体の連携が取れていなかった	5	2%
6. より多くの人に参加できるようにすると良いと思った	18	7%
7.その他	1	0.5%
未回答	162	60%
計	267	100%

(その他の回答)

わからない(1)



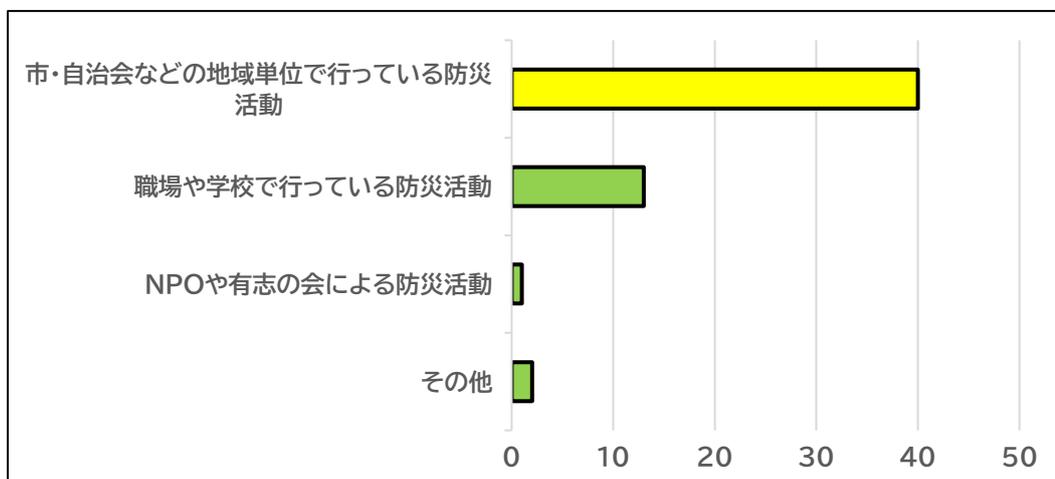
Q17 今まで参加したことがある防災活動は何ですか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 市・自治会などの地域単位で行っている防災活動	40	18%
2. 職場や学校で行っている防災活動	13	6%
3. NPOや有志の会による防災活動	1	0.5%
4. その他	2	1%
未回答	164	74.5%
計	220	100%

(その他の回答)

消火訓練(1)、消防庁(1)、消費者団体連絡協議会があった時(1)



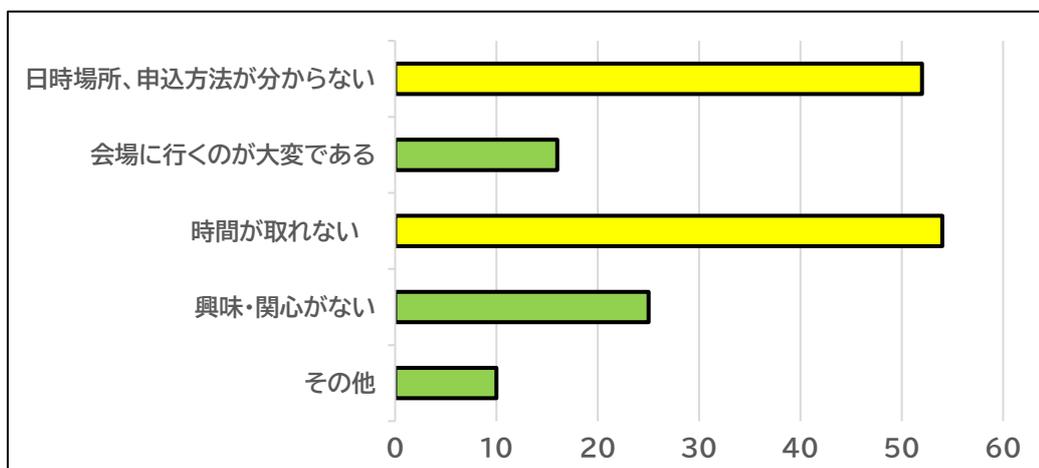
Q18 防災訓練に参加していない理由は何ですか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 日時場所、申込方法が分からない	52	23%
2. 会場に行くのが大変である	16	7%
3. 時間が取れない	54	24%
4. 興味・関心がない	25	11%
5. その他	10	4%
未回答	72	31%
計	229	100%

(その他の回答)

- ・関心はあるが、参加していない
- ・開催日に用事がある
- ・留守のことが多い
- ・身体の都合
- ・足腰不自由で参加不能
- ・訓練の存在を知らなかった
- ・参加者が一部の方と思うから



(防災対策)

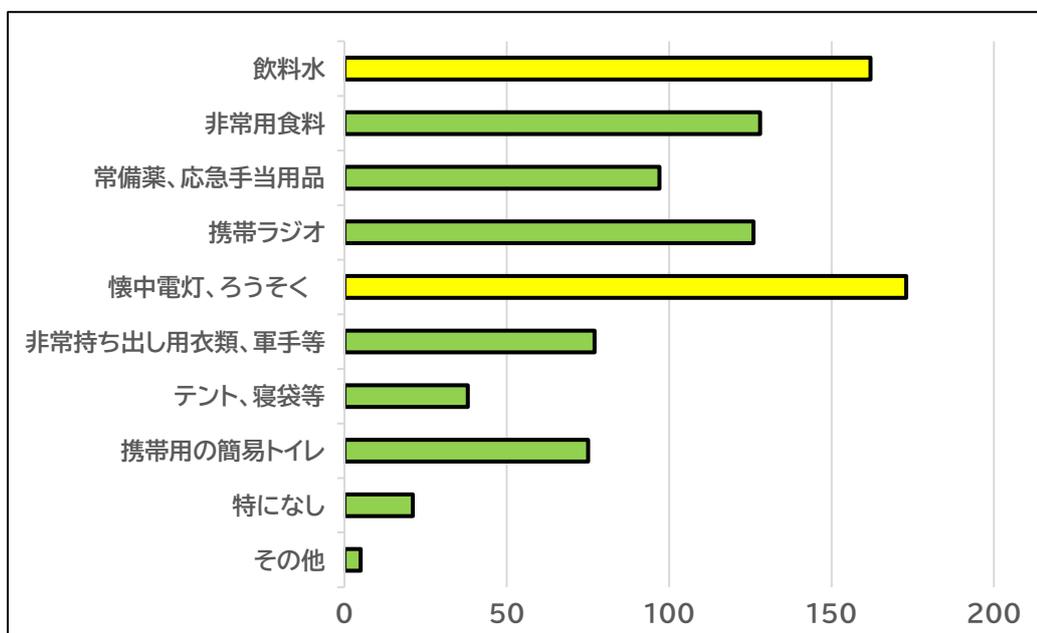
Q19 あなたの家では、災害に備えて水・食料・生活必需品の備蓄などの準備をしていますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比	回答数/213
1. 飲料水	162	18%	76%
2. 非常用食料	128	14%	60%
3. 常備薬、応急手当用品	97	11%	45%
4. 携帯ラジオ	126	14%	59%
5. 懐中電灯、ろうそく	173	19%	81%
6. 非常持ち出し用衣類、軍手等	77	9%	36%
7. テント、寝袋等	38	4%	17%
8. 携帯用の簡易トイレ	75	8%	35%
9. 特になし	21	2%	9%
10. その他	5	0.7%	2%
未回答	2	0.3%	0.9%
計	904	100%	—

(その他の回答)

- ・自宅トイレ用凝固剤
- ・充電池



▶ 「懐中電灯、ろうそく」が 173、「飲料水」は 162 だった。実回答数に対する割合で見ると、「懐中電灯、ろうそく」は 213 世帯中の 81%、「飲料水」は 76%で備蓄している。一方で、「携帯用簡易トイレ」の回答は 75、213 世帯中の備蓄は 35%だった。

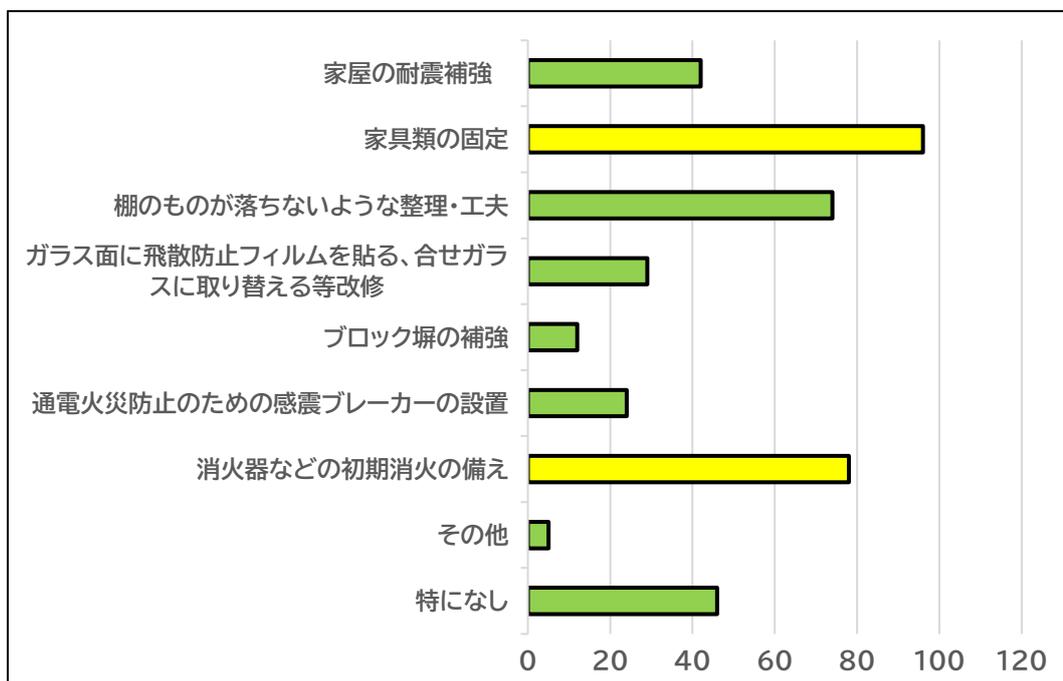
Q20 家屋の耐震性や安全性の確保で、行っていることはありますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 家屋の耐震補強	42	10%
2. 家具類の固定	96	24%
3. 棚のものが落ちないような整理・工夫	74	18%
4. ガラス面に飛散防止フィルムを貼る、合せガラスに取り替える等改修	29	7%
5. ブロック塀の補強	12	3%
6. 通電火災防止のための感震ブレーカーの設置	24	6%
7. 消火器などの初期消火の備え	78	19%
8. 特になし	46	11%
9. その他	5	1.2%
未回答	3	0.8%
計	409	100%

(その他の回答)

ロープ、マンションなのでわからない、台所の小型用1つ、一部(3)



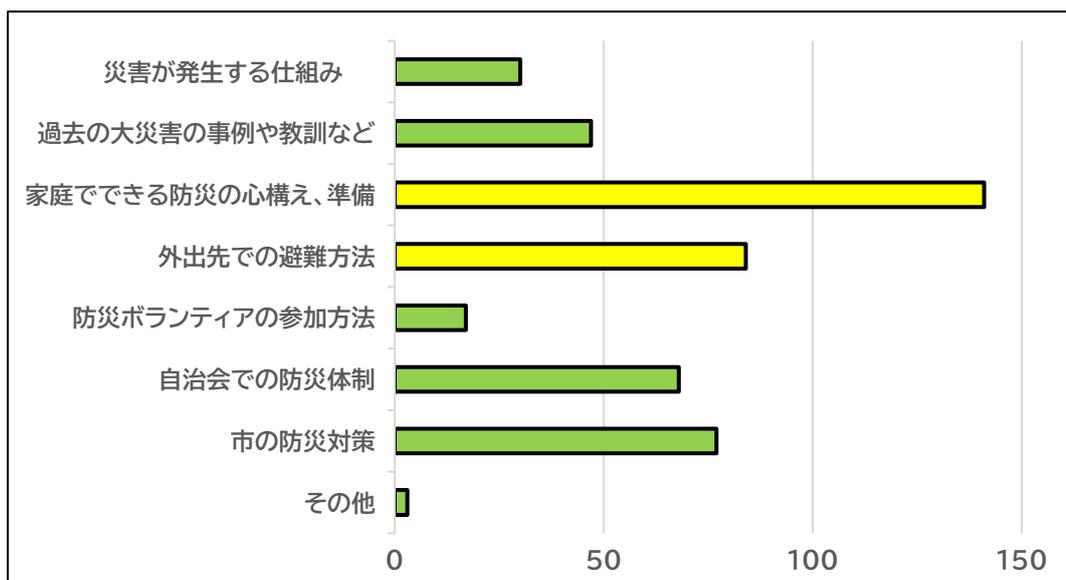
Q21 防災全般のことで、日頃からどのような知識・情報を得たいと思いますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 災害が発生する仕組み	30	6%
2. 過去の大災害の事例や教訓など	47	10%
3. 家庭でできる防災の心構え、準備	141	29.5%
4. 外出先での避難方法	84	18%
5. 防災ボランティアの参加方法	17	4%
6. 自治会での防災体制	68	14%
7. 市の防災対策	77	16%
8. その他	3	0.5%
未回答	11	2%
計	478	100%

(その他の回答)

特になし(1)



クロス集計<Q2 年齢とQ21 欲しい防災の知識・情報の関係>

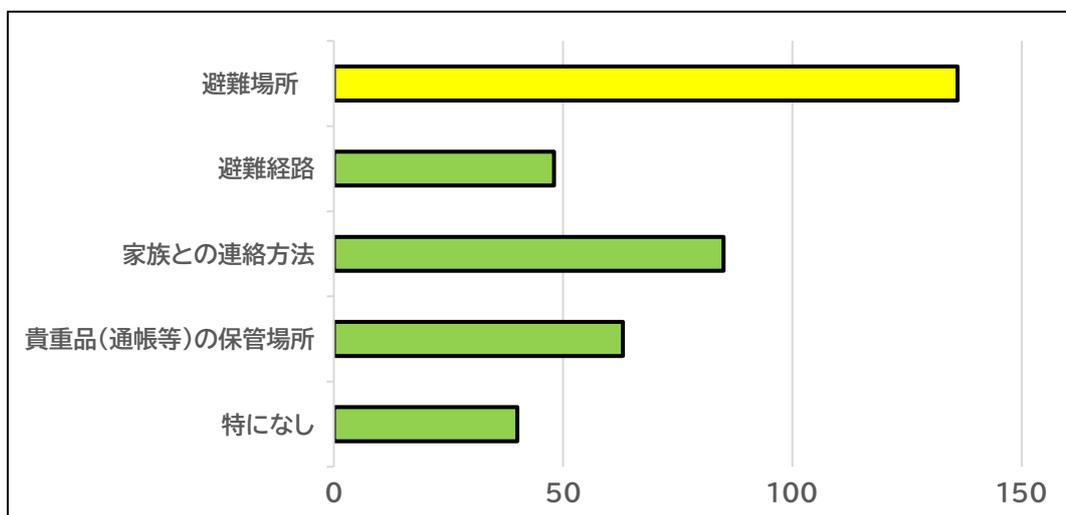
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	未回答	合計
災害が発生する 仕組み	0	0	5	5	5	7	8	0	0	30
過去の大災害の 事例や教訓など	0	3	8	10	9	7	8	2	0	47
家庭でできる防 災の心構え、準備	2	11	14	20	28	24	33	7	2	141
外出先での避難 方法	1	8	10	13	17	15	18	2	0	84
防災ボランティア の参加方法	0	1	3	5	2	4	2	0	0	17
自治会での防災 体制	0	1	9	6	13	18	14	6	1	68
市の防災対策	0	3	13	10	11	15	19	4	2	77
その他	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
未回答	0	1	2	1	2	1	3	1	0	11
合計	3	28	64	70	89	91	106	22	5	478

(災害時の避難生活)

Q22 避難時の行動で、確認しているものはありますか。

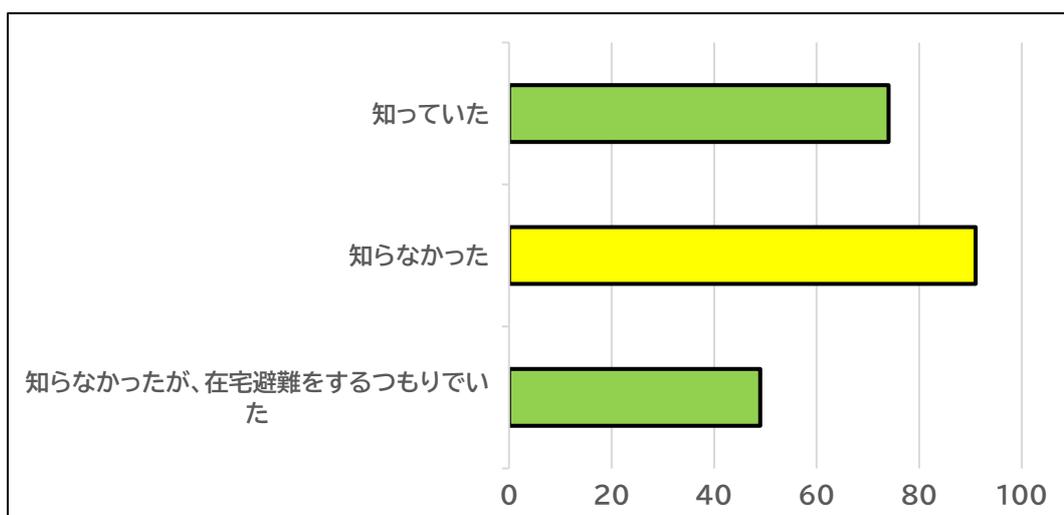
あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 避難場所	136	36%
2. 避難経路	48	13%
3. 家族との連絡方法	85	22%
4. 貴重品(通帳等)の保管場所	63	17%
5. 特になし	40	10%
6. その他	0	0%
未回答	6	2%
計	378	100%



Q23 市から「在宅避難」(災害発生時に自宅が安全な場合、自宅に留まる方法)が呼びかけられています。これについてご存知でしたか。

	回答数	構成比
1. 知っていた	74	34%
2. 知らなかった	91	42%
3. 知らなかったが、在宅避難をするつもりでした	49	22%
4. その他	0	0%
未回答	4	2%
計	218	100%



クロス集計<Q2 年齢と Q23 在宅避難の関係>

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	未回答	合計
知っていた	0	1	10	9	13	15	23	3	0	74
知らなかった	2	11	14	14	15	13	15	5	2	91
知らなかったが、在宅避難をするつもりでした	0	2	4	7	10	8	15	3	0	49
未回答	0	0	0	0	0	0	3	1	0	4
合計	2	14	28	30	38	36	56	12	2	218

▶「知らなかった」が91で最も多く、割合は42%だった。年齢別に見ると、70歳代～80歳代では「知っていた」が最も多く、年代によっての情報の差がある。

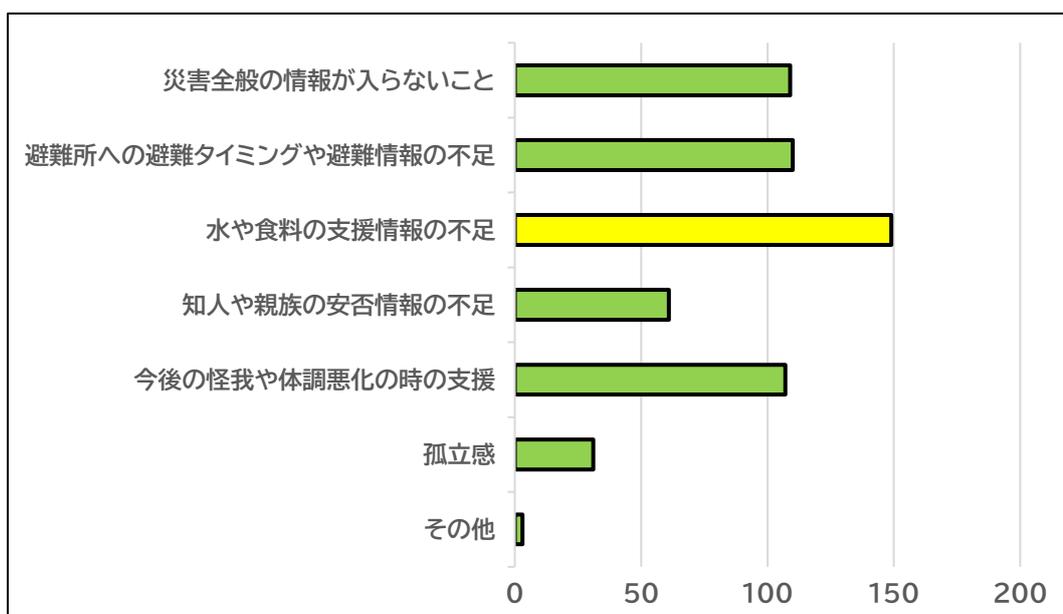
Q24 「在宅避難」の時に、不安なことがありますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 災害全般の情報が入らないこと	109	18.8%
2. 避難所への避難タイミングや避難情報の不足	110	18.9%
3. 水や食料の支援情報の不足	149	26%
4. 知人や親族の安否情報の不足	61	10.5%
5. 今後の怪我や体調悪化の時の支援	107	18.3%
6. 孤立感	31	5%
7. その他	3	0.5%
未回答	11	2%
計	581	100%

(その他の回答)

電気・ガス・水道のライフライン、共助の方法、なし



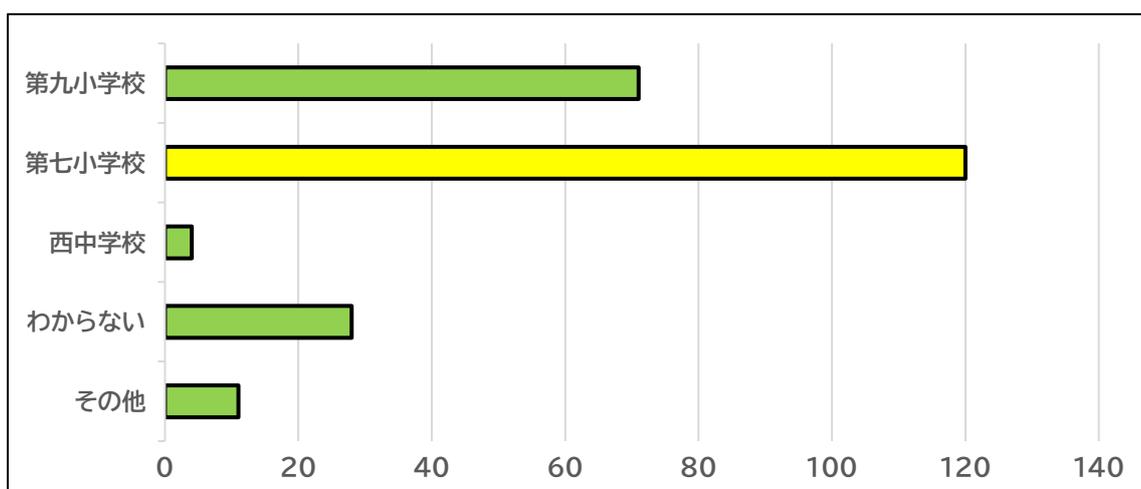
Q25 地震などの災害が起きた場合の避難所はどこを考えていますか。

※避難所は、地域ごとに指定されていますが、必要な場合はどこの避難所を利用して
もよいとされています。

	回答数	構成比
1. 第九小学校	71	30%
2. 第七小学校	120	50.5%
3. 西中学校	4	1.7%
4. わからない	28	12%
5. その他	11	4.5%
未回答	3	1.3%
計	237	100%

(その他の回答)

- ・(1を回答)本当は七小が近いので七小に避難したい
- ・(2を回答)地域としては九小ですが七小が近いから
- ・白山公園近くの小学校(1か2かどちらかわからない)
- ・いずれも車を使っていないので遠くてすぐには避難できません。とりあえず遊歩道、その後お手伝いしていずれかにお願いします。
- ・ひまわり公園
- ・わくわく健康プラザ(2) ※旧滝山小学校含む
- ・白山公園
- ・小平霊園
- ・在宅(2)、実際には自宅になると思う。七小まで行かない(行けない)
- ・その時に判断する



クロス集計<Q2 年齢と Q25 避難所の関係>

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	未回答	合計
第九小学校	0	9	7	12	12	14	12	4	1	71
第七小学校	2	8	20	14	15	18	39	4	0	120
西中学校	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
わからない	0	1	2	4	8	4	4	4	1	28
その他	0	0	1	0	4	2	4	0	0	11
未回答	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
合計	2	19	30	32	39	39	61	13	2	237

▶ 最も多い回答は、「第七小学校」120で、50%だった。市の指定避難所である「第九小学校」は71で、30%となっている。また、30歳代～90歳代の各年齢層で、「わからない」と回答があった。その他では、わくわく健康プラザ(旧滝山小学校)、遊歩道や近隣の公園という回答があった。

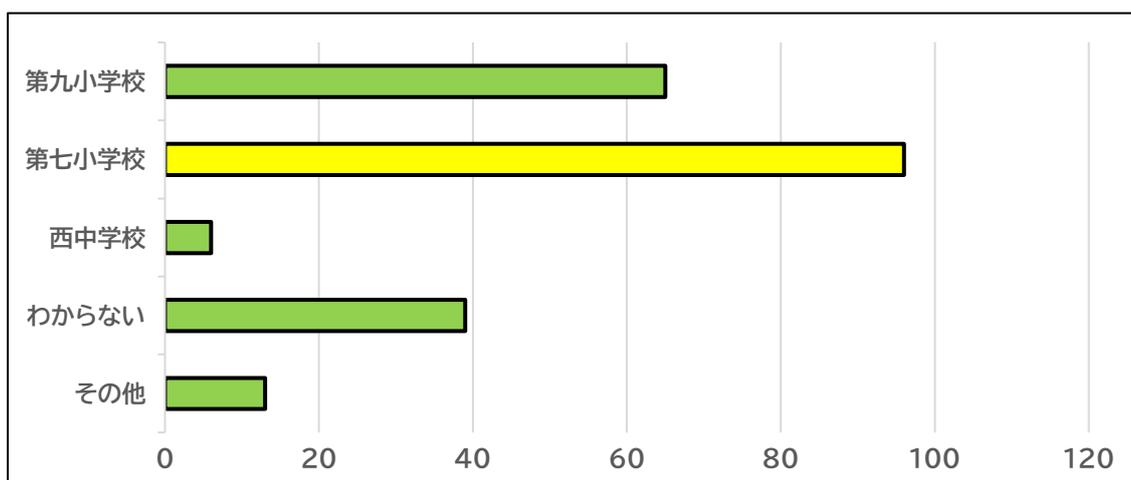
Q26 水害が起きた場合の避難所はどこを考えていますか。

※避難所は、地域ごとに指定されていますが、必要な場合はどこの避難所を利用してもよいとされています。

	回答数	構成比
1. 第九小学校	65	29%
2. 第七小学校	96	41%
3. 西中学校	6	2%
4. わからない	39	17%
5. その他	13	6%
未回答	10	5%
計	229	100%

(その他の回答)

- ・(1 を回答)Q25 同様に七小を希望
- ・どこでも良い
- ・ひまわり公園
- ・在宅(2)
- ・わくわく健康プラザ ※旧滝小
- ・西部地域センター→わくわくランド
- ・滝山病院
- ・滝山地区での水害は無いものとする
- ・ハザードマップ上水害のある地域ではないので、考えていない
- ・当地は地形上水害は発生しないと思いますが

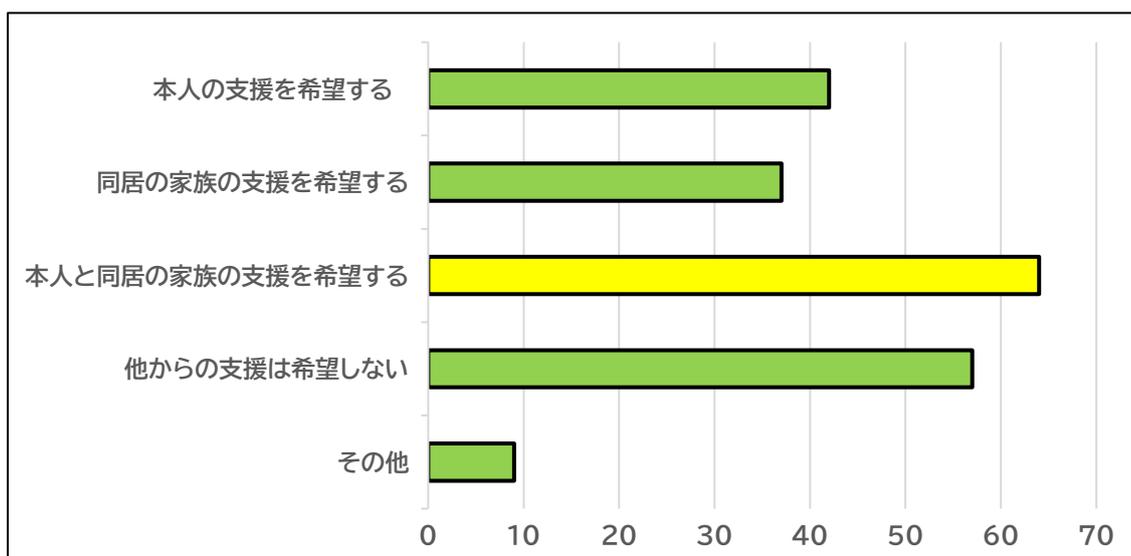


Q27 災害時、あなた本人または同居の家族が安全な場所に避難する時に、他からの支援を希望しますか。**あてはまる数字1つ**を○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 本人の支援を希望する	42	19%
2. 同居の家族の支援を希望する	37	17%
3. 本人と同居の家族の支援を希望する	64	30%
4. 他からの支援は希望しない	57	26%
5. その他	9	4.3%
未回答	8	3.7%
計	217	100%

(その他の回答)

- ・(1を回答)自力で避難したいと考えている
- ・(4を回答)今現在であれば、後々は3となるかもしれない
- ・けががなければ支援は不要
- ・ペットがいるので
- ・今の体力なら不要です
- ・災害時にケガをしまして動けない場合
- ・現在は支援は必要無いと思う
- ・発災時にケガ等負傷した場合は必要になるかもしれない
- ・質問の意味不明
- ・意味が分かりません、他とは？



クロス集計<Q2 年齢と Q27 避難時の支援の関係>

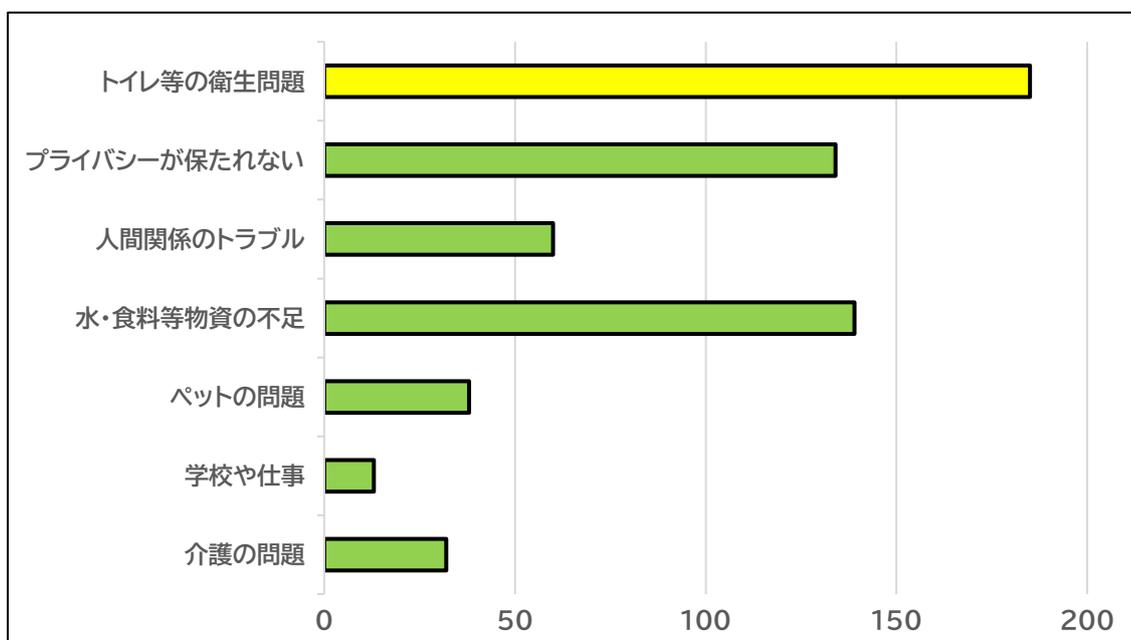
	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	未回答	合計
本人の支援を希望する	0	0	1	2	3	9	21	6	0	42
同居の家族の支援を希望する	0	3	5	10	7	5	6	0	1	37
本人と同居の家族の支援を希望する	1	7	10	3	11	13	15	4	0	64
他からの支援は希望しない	1	4	10	14	16	7	5	0	1	58
その他	0	0	2	1	2	1	2	1	0	9
未回答	0	0	0	0	0	1	5	1	0	7
合計	2	14	28	30	39	36	54	12	2	217

▶20 歳代～40 歳代と 70 歳代～90 歳代で、「本人」「同居の家族」の避難支援を希望している。40 歳代～60 歳代は「他からの支援は希望しない」の回答が多い。

Q28 避難所での生活が長期化した場合、特に不安に思われることは何ですか。

あてはまる数字3つを○で囲んでください。

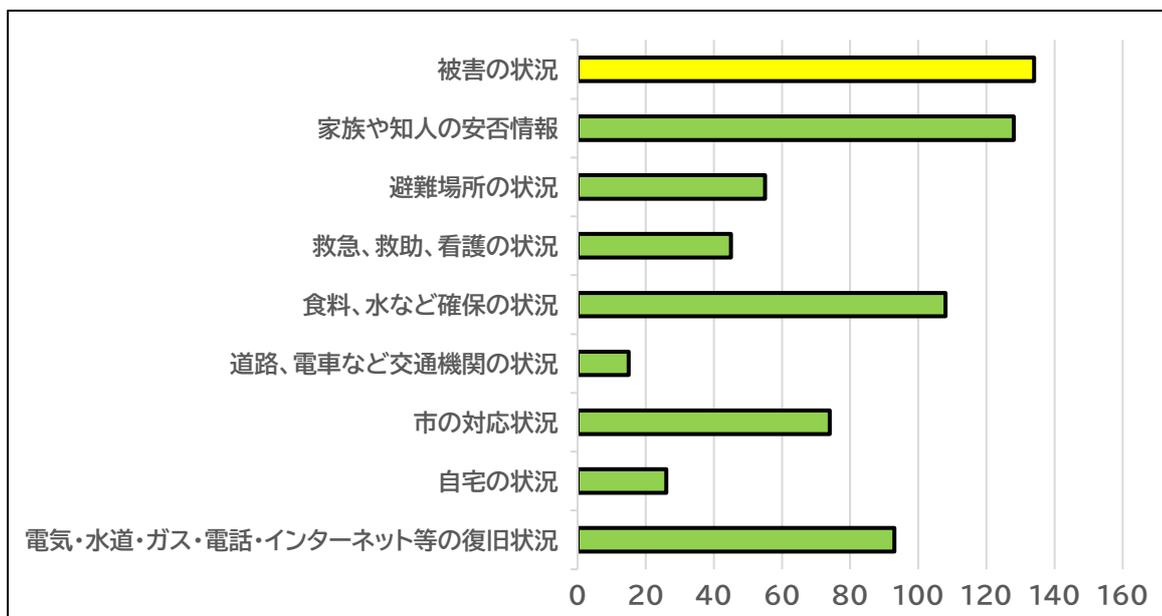
	回答数	構成比
1. トイレ等の衛生問題	185	31%
2. プライバシーが保たれない	134	22%
3. 人間関係のトラブル	60	10%
4. 水・食料等物資の不足	139	23%
5. ペットの問題	38	6%
6. 学校や仕事	13	2%
7. 介護の問題	32	5%
未回答	2	1%
計	603	100%



▶最も多い回答は、「トイレ等の衛生問題」で 185 だった。一方で、各家庭での備蓄品(Q19)で「携帯用簡易トイレ」を用意している人は 75 で、差が大きい。また、「介護の問題」の回答が 32 ある。これは実回答数 213 の 15%で、6.7 人にひとりの割合となる。

Q29 災害時、特に知りたい情報は何か。**あてはまる数字3つ**を○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 被害の状況	134	19.7%
2. 家族や知人の安否情報	128	19%
3. 避難場所の状況	55	8%
4. 救急、救助、看護の状況	45	6%
5. 食料、水など確保の状況	108	16%
6. 道路、電車など交通機関の状況	15	2%
7. 市の対応状況	26	4%
8. 自宅の状況	74	11%
9. 電気・水道・ガス・電話・インターネット等の復旧状況	93	14%
未回答	2	0.3%
計	680	100%



(災害時の助け合い)

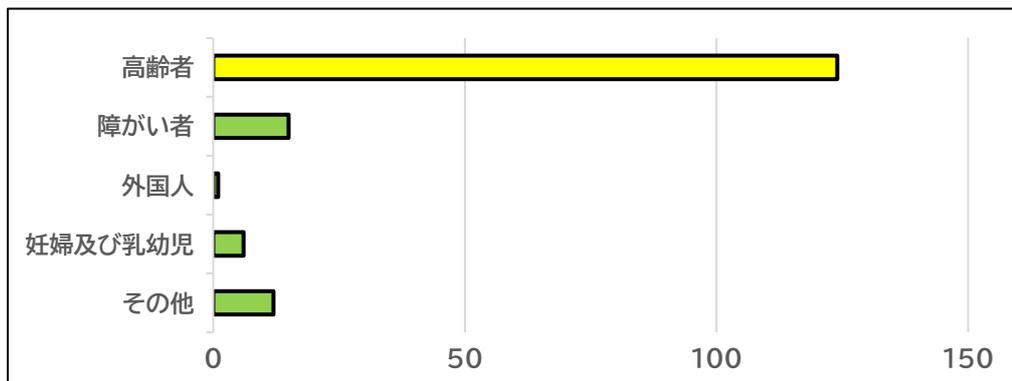
Q30 災害時、自力で避難することに支障があったり、避難に時間を要すると思われる方（高齢者、障がい者、外国人、妊婦及び乳幼児）など近隣で気になる方がいますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 高齢者	124	54%
2. 障がい者	15	7%
3. 外国人	1	0.5%
4. 妊婦及び乳幼児	6	2.5%
5. その他	12	5%
未回答	70	31%
計	228	100%

(その他の回答)

- ・なし(4)
- ・88歳と87歳
- ・本人(高齢者)
- ・わからない、不明



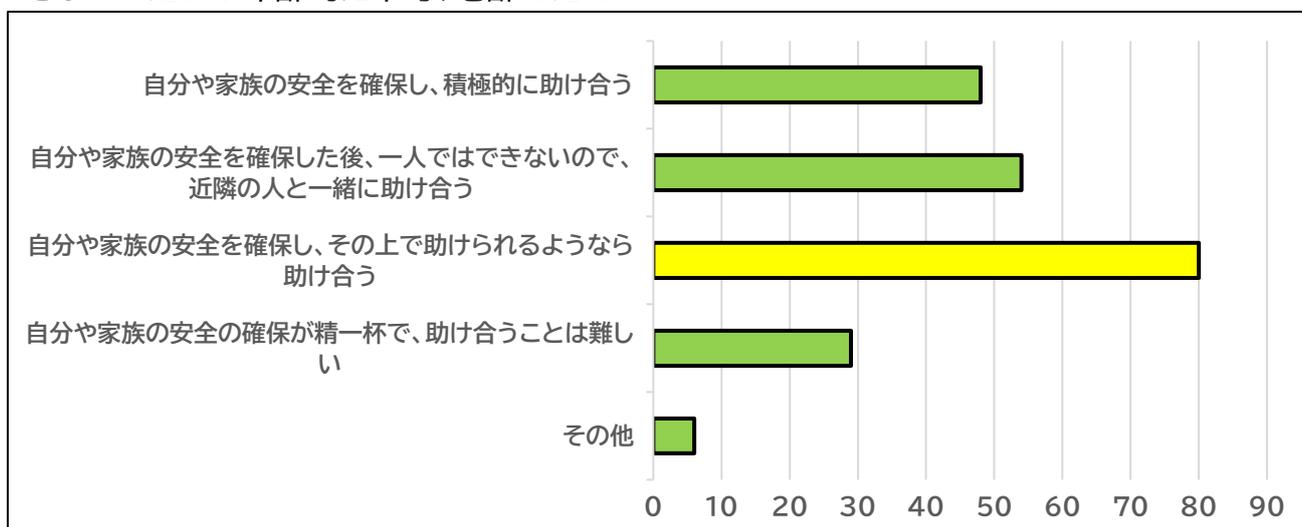
Q31 高齢者、障がい者、外国人、妊婦及び乳幼児の避難に手をさしのべられますか。

あてはまる数字1つを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 自分や家族の安全を確保し、積極的に助け合う	48	22%
2. 自分や家族の安全を確保した後、一人ではできないので、近隣の人と一緒に助け合う	54	25%
3. 自分や家族の安全を確保し、その上で助けられるようなら助け合う	80	36%
4. 自分や家族の安全の確保が精一杯で、助け合うことは難しい	29	13%
5. その他	6	3%
未回答	3	1%
計	220	100%

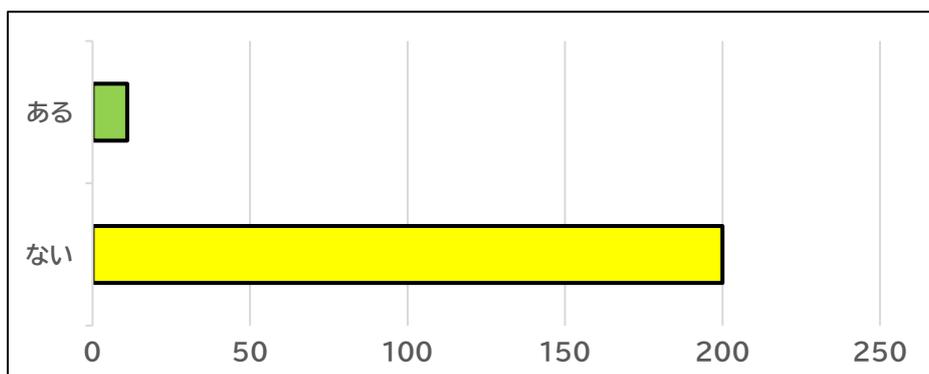
(その他の回答)

- ・自分の職場に行かなければならないので今は助け合えない
- ・さしのべたいが年齢的に不可、老齢のため



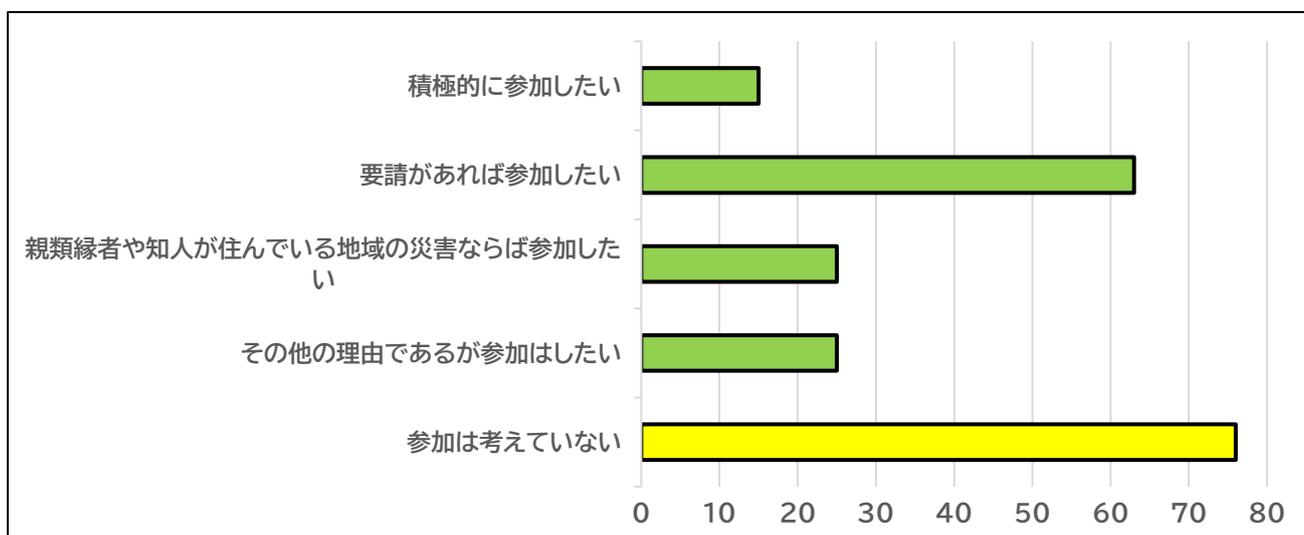
Q32 今まで災害が発生した時に、ボランティア活動を行ったことがありますか。

	回答数	構成比
1. ある	11	5%
2. ない	200	94%
未回答	2	1%
計	213	100%



Q33 災害発生時、様々なボランティア活動が必要になります。参加したいと思いますか。

	回答数	構成比
1. 積極的に参加したい	15	7%
2. 要請があれば参加したい	63	29%
3. 親類縁者や知人が住んでいる地域の災害ならば参加したい	25	12%
4. その他の理由であるが参加はしたい	25	12%
5. 参加は考えていない	76	35%
未回答	11	5%
計	215	100%



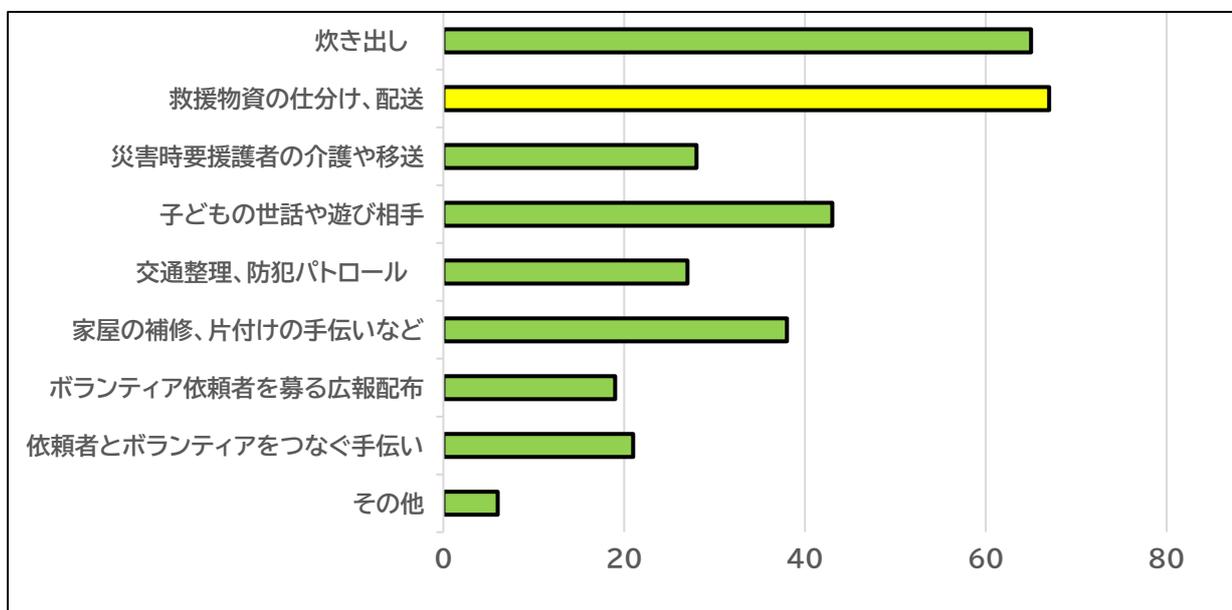
Q34 参加したいと思うボランティア活動の内容はどのようなものですか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 炊き出し	65	16.3%
2. 救援物資の仕分け、配送	67	16.9%
3. 災害時要援護者の介護や移送	28	7%
4. 子どもの世話や遊び相手	43	11%
5. 交通整理、防犯パトロール	27	6.8%
6. 家屋の補修、片付けの手伝いなど	38	10%
7. ボランティア依頼者を募る広報配布	19	5%
8. 依頼者とボランティアをつなぐ手伝い	21	5.3%
9. その他	6	1.5%
未回答	83	20.2%
計	397	100%

(その他の回答)

- ・高齢のためできないと思う
- ・看護師として自分の体が動けば
- ・外国人の通訳・お手伝い
- ・何に参加できるかわからない
- ・ペット関連

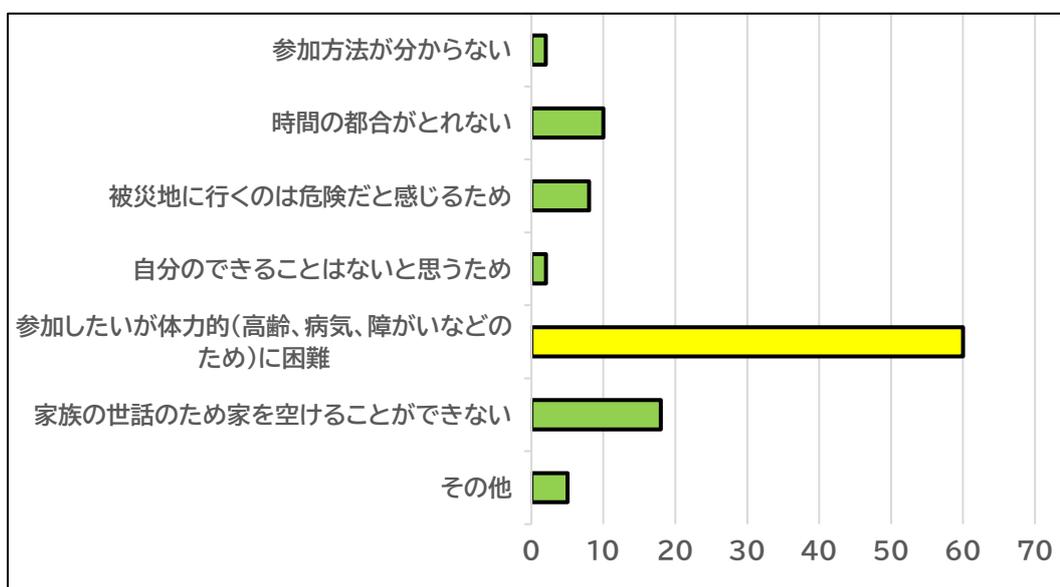


Q35 参加を考えていない理由は何ですか。**あてはまる数字すべて**を○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 参加方法が分からない	2	1%
2. 時間の都合がとれない	10	5%
3. 被災地に行くのは危険だと感じるため	8	4%
4. 自分のできることはないと思うため	2	1%
5. 参加したいが体力的(高齢、病気、障がいなどのため)に困難	60	29%
6. 家族の世話のため家を空けることができない	18	7%
7. 興味、関心がないため	0	0%
8. その他	5	3%
未回答	132	50%
計	237	100%

(その他の回答)

- ・職場の人手が足りていて休みをとれるようなら参加したい
- ・職場で活動しなければいけないので
- ・勤務先の病院へかけつける必要があるため、自分以外の家族は、余裕があれば参加できるかもしれない
- ・公務のため
- ・その時になったら自分自身で精一杯だと思うから



(自治会へ期待すること)

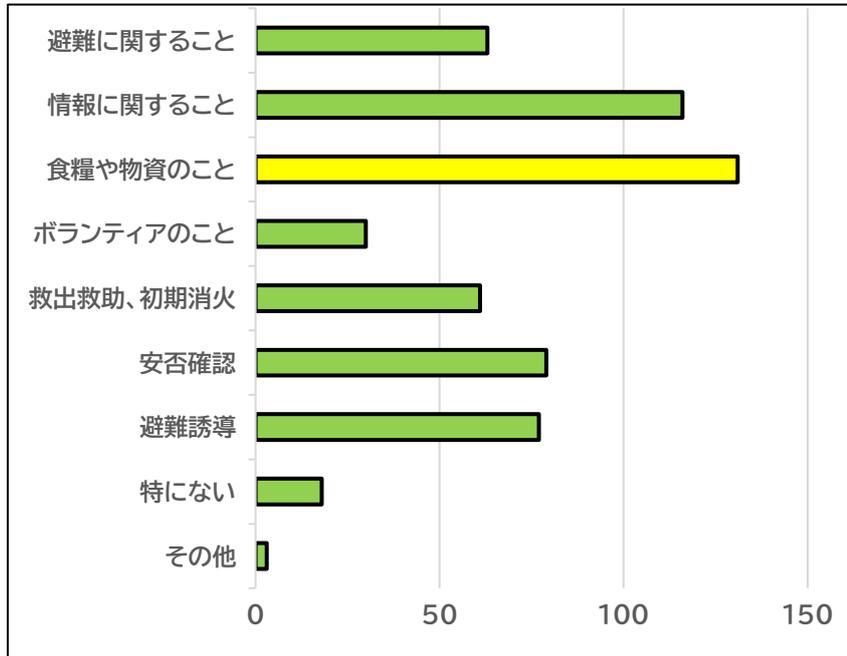
Q36 災害時に、自治会に期待することはありますか。

あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 避難に関すること(例)自力で避難できないので手伝って欲しい	63	11%
2. 情報に関すること(例)行政や避難所との連絡、情報の発信の役割	116	20%
3. 食糧や物資のこと(例)炊き出し、食料や物資の配布の拠点づくり	131	22%
4. ボランティアのこと(例)依頼受け付け、派遣のコーディネート	30	5%
5. 救出救助、初期消火	61	10.5%
6. 安否確認	79	13.5%
7. 避難誘導	77	13%
8. 特にない	18	3%
9. その他	3	0.5%
未回答	9	1.5%
計	587	100%

(その他の回答)

- ・自治会に期待はしていません
- ・自治会に入っていないのでわからない



Q37 日頃の防災について、自治会に期待することはありますか。

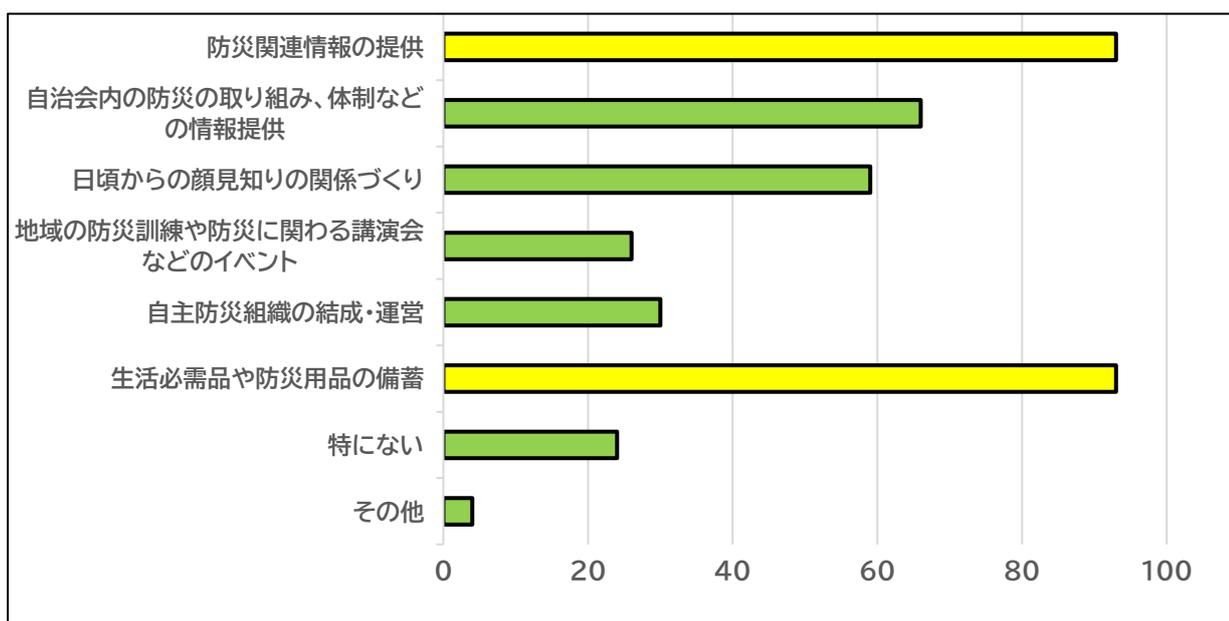
あてはまる数字すべてを○で囲んでください。

	回答数	構成比
1. 防災関連情報の提供	93	22.5%
2. 自治会内の防災の取り組み、体制などの情報提供	66	16%
3. 日頃からの顔見知りの関係づくり	59	14%
4. 地域の防災訓練や防災に関わる講演会などのイベント	26	6%
5. 自主防災組織の結成・運営	30	7%
6. 生活必需品や防災用品の備蓄	93	22.5%
7. 特にない	24	6%
8. その他	4	1%
未回答	18	5%
計	413	100%

(その他)

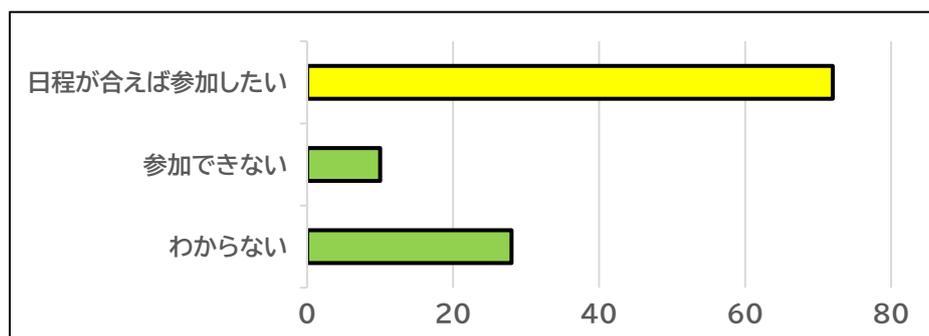
・防災備品の倉庫

・自治会に入っていないのでわからない、現在、自治会退会しているので、期待するのは厚かましい



Q38 令和5年1月下旬～2月頃に、アンケート結果と防災講座を開催します。自治会に加入していない人でも参加できます。

	回答数	構成比
1. 日程が合えば参加したい	108	51%
2. 参加できない	27	13%
3. わからない	73	34%
未回答	5	2%
計	213	100%



Q39 その他、生活の中で気になっていることや不安に感じていることなどご意見や防災活動に関するアイデアなどご記入下さい。

(地域の助け合い、関係づくり、防災情報、自治会のこと) 10 件

- ・私も高齢だが近所はもっと高齢な方も多い。できるだけ近所で助け合っていきたい。
- ・転入や世代交代もあり、地域住民の結び付きは希薄になって来ています。地域住民が顔見知りになれるような機会ができればいいと思っています。
- ・近所に 2 年程前に越して来られた方で御主人ですが顔が会ったらあいさつしようと思うのですが、さけているように思います。私にだけでなく近所の方に聞くと皆さん同じです。早く気持ちよく付き合いたいです。
- ・災害が発生してからでは何も段取り良くはできません。日頃から防災意識を高め、共助精神を培っていききたいものです。この取組みは遅すぎるくらいです。高齢化が進む今、できるだけ多く住民が参加する企画をイベント形式で気軽に催せればと思います。まずは顔見知りからですね。
- ・非常時に町内の誰一人として孤立させることのないように、まずは近所で安否確認ができる関係作りが必要だと考えます。そのうえで、町内で連携して組織的に情報を共有できるような町作りを五丁目自治会には期待しています。
- ・近所が建て替えになり付き合いが減った事 犬のフンを取ってほしい(孫)
- ・常勤の人は、地域の活動にはなかなか参加できません。だからこそ日頃の交流、いざというときの体制作りが重要です。SNS などを使って日頃から連絡しているといざというとき便利だと思います。
- ・1 人親で自治会に参加して情報を得たいが、時間がなく参加出来なく、申しわけない。
- ・平成 26 年 1 月に越して(滝山 5 丁目)来ましたが、”自治会はない”と言われてそのままです。長くお住まいの方はそれなりに情報も入っているみたいですが、何となく近所づき合いもあまりありません。ので防災の情報も入って来ません。
- ・何も無いときは特に問題意識はないが、万一災害が発生した時はお互いに助け合いは必要。唯、その前に近所の人との普段からのコミュニケーションが必要と思う。災害発生時に急に機能が発揮出来る訳はないので、近所の人との接触の機会の場を設けることを行政で考えて貰いたい。現在自治会でどのような活動をしているのか判らない。少額の会費を払うのは良いとしてその活動内容は不満で退会した。自治会活動はどう有るべきか？専門家のアドバイスを積極的にして欲しい。

(高齢者のこと・避難、火災、連絡網、雪かき) 7 件

- ・高齢な一人暮らしのため避難命令が出た時、その場所に無事たどりつけるかが心配です。
- ・高齢者のため災害の時の指定の避難場所が遠いので、そこまで行けるかどうかと気にかかります。民家のご家庭内でも避難できるように契約をしておくような(市で)システムがあればよいと思いますが。(かけこみハウスのようなもの)
- ・いつもお世話になるばかりで申し訳ありません。高齢の為行動することが遅く迷惑をかける

ことになります。

- ・現在、高齢ではあるが、健康であり、介護等の心配はないが、周囲が高齢者が多く災害時の対応(高齢者同士)に心配している。災害時には火災が一番心配されるところだ 他市から移住してきた者からすると、街頭や目立つところに消火器の配置がないのが不安である。
- ・高齢者が多くなってきたから、お互いに声かけが必要と思う。長年住んでいても、お互いコミュニケーションがないので災害時には心配です。又、1人暮らしの老人が多く、サポートが必要と思います。
- ・高齢者宅への災害時確認連絡網の作成
- ・大雪が降った場合、高齢者の雪かきは、大変困難です。何か対策をお考えいただけると有難いです。

(避難所のこと)2件

- ・普段は家にいるんですが、どんなときに避難所を利用したらいいのかわかりません。
- ・自治会会員でない為、災害時の支援が自治会運営だと困ります。市が運営してほしいです。自治会に入ることはないです。白山公園のサッカーグラウンド側に土を入れて底上げした事をととても心配しています。雨水の貯水量が減ってしまったので、大雨の時が心配です。

(災害時の心配、自助・備えのこと、心構え)5件

- ・小さい子供とペット(猫)が2匹いるので普段からどんなそなえをするべきかわからない。
- ・今のところ特に気になっていることはないのですが、近い将来災害が発生するのではないかと危惧している。そのため心がまえはいつも心にとどめています。
- ・日頃から防災時への取り組みを理解し、家族との連絡を密に取り安否確認がスムーズに出来る様心掛けたいと思う！ マンション内でも顔見知りの方との挨拶は自分から心掛けたい！
※特にコロナ禍では挨拶も避ける方々も居るので・・・最小限のみでOK。
- ・ペットがいるので自宅避難を考え、ある程度の準備もしているが実際にどのような状況に直面するか分からないので不安を感じている。
- ・定期的に治療が必要な場合の対応。ex(血液の透析等)

(市の震度情報のこと)2件

- ・地震速報で東久留米の震度情報が一切なく不思議です。遠方に暮らす両親も心配しています。大きく揺れていなくても、やはり震度は気になるので「不明」なのは心配ですし、情報提供されないことに不満を感じます。
- ・私は地震を感じた時、ラジオのスイッチを入れ、そして気象協会の地震情報により震源地や各地の震度情報を得ます。その関東五県と山梨・静岡に限定しパソコンに入力、地震の多発地帯やその傾向などを知り、それがぼけ防止策を考え実行しています。それによると東久留米市の震度発表は別表1と2の通り謎めいています。これらについて別紙の通り議員さんが指摘されているようですが改善がみられません。「市の防災対策」はまず正しい震度発表からと思いますが・・・。

(道路の整備、公園倒木や電柱の倒壊、下水の心配)7件

- ・道路がガタガタで、車いすやお年寄りが歩くのに危険だと思います。きれいにしてほしい。
- ・滝山 5 丁目 12 番の遊歩道につながる道路が未修繕。ドブ側コンクリがいたんでいて、歩行者も多く危ない。コンクリを打ち直してほしい。
- ・滝山営業所の近くの道路整備がされていないので、揺れがすごく毎日震度 2～3 程度の揺れがあり耐震が不安。
- ・ひまわり公園の通りは、第九小学校への通学路になっており、自転車がスピードを出すことが多いので、スピードの出しづらい道路に(道路上に凸型のもの)してほしいです。
- ・公園・緑が多いのは良い事ですが、倒木・電柱の倒壊等での災害時の安全性が保たれる強度な補強が出来ているのかが心配です。
- ・先日、ちょっとした雨で、滝山中央通り(バス通り)のマンホールから水が吹き出していました。滝山団地もあるので汚水処理の量は、雨水が混じると、すぐにオーバーしてしまうのではないのでしょうか？ 上記の時は、ふたが少し持ち上がっていたので警察に連絡しました。
- ・公共の道に、たばこ及びゴミをすてないことをお願いします。

(生活・市の福祉サービスのこと)2件

- ・仕事が無い為、家賃が払えなくなりそう。
- ・高齢の親の件で市の方にきてもらう場合、土日は対応してもらえず不便を感じる。もう少しそういう事も考えてもらいたい。(社会福祉課とか)

(その他)6件

- ・令和4年5月末に転居(練馬区より)して来たので様子が良くわかりませんので、説明を頂きたいと存じ上げます。
- ・他市に住んでいる母(90歳)のことです。
- ・①高齢による体力、諸機能が著しく低下していること ②消火器設置を安価に購入したい ③ひまわり公園での講習会の実施
- ・Q28の3は、アンケート用紙に記載の「人間関係のトラブル」を正規の回答項目として回答しています。
- ・本格的アンケートありがとうございました。市内の全自治会で行うのですか。アンケートをより生かしてください。
- ・特にありません。

令和5年2月18日発行

〒203-0033 東久留米市滝山 4-3-14 わくわく健康プラザ 2階

社会福祉法人 東久留米市社会福祉協議会 西部地域担当

電話 042-471-0294(代表) ファクス 042-476-4545

ホームページ <https://www.higashikurume-shakyo.or.jp/>



この事業は、歳末たすけあい募金地域福祉活動費を活用しています。